

大会運営の簡素化の検討状況について

大会組織委員会は、本年6月に大会簡素化の方針を表明して以降、約3か月にわたって、IOC（国際オリンピック委員会）・IPC（国際パラリンピック委員会）、国際競技連盟、パートナー企業など、多くの関係者と議論を重ね、9月のIOC調整委員会で52項目にわたる簡素化案を合意した。そして、現時点における見直しによる削減効果をおおよそ300億円と算出し、今月7日のIOC理事会で報告した。

1 主な見直し項目・内容

大会関係者	・大会関係者数の削減。10%から15%程度減見込み。
	・ホテルでの競技映像の配信をケーブルテレビからインターネットに変更。
会場・施設	・会場運営用スペース(諸室、スタッフ用スペース等)の縮小・統合。
	・チケット販売に影響しない仮設観客スタンド(2会場)の削減。
	・当日チケット販売所とスポーツ体験用仮設テントの削減。
	・選手関係者席について20%程度を目途に削減。
	・メインプレスセンターの運営期間を8日間短縮。
	・練習会場の使用期間を1日短縮。
輸送	・大会関係者、メディア向けのバス輸送サービスの期間・頻度等の見直し。
	・搬入物資検査場等の削減。
気運醸成・イベント	・選手団の選手村入村式の取り止め。
	・開閉会式式典について簡素化の方針に基づいて検討。
	・聖火リレーの車両削減、スタート地点での装飾やスタッフ数等の見直し。

2 東京2020オリンピック聖火リレー

(1) 概要

新たな実施日程は、2021年3月25日(木)を出発日とする121日間とし、聖火リレーを実施する区市町村は、原則として変更せず、従前のスケジュールの1日前倒しとなる。また、走行ルートについても当初案と同じ予定となる。区内の走行日は7月21日(水)となるが、都内の区市町村の走行順は今回公表されていない。

大会組織委員会は、聖火リレー隊列のスリム化や業務運営内容の効率化など簡素化に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症対策についても検討をすすめ、今後、具体的な対策案を取りまとめて公表する。

(2) 区の対応

9月27日に開所したランニングステーション(大森スポーツセンター内)において、聖火リレーに係る展示を行っているほか、今後、区ホームページでの紹介やチラシの配布を通じ、日程やコースをPRし、区民の関心を高めていく。